

中古機械の買い取り拡大

ユームズ・フロンティア



中古機械の在庫を置いている倉庫

SNS活用 12月仕入れ額が過去最高

中古機械の売買を手掛けるユームズ・フロンティア（本社 鈴鹿市汲川原町460、林優社長、電話059・395・6658）は、中古機械の買い取りを拡大している。昨年12月の仕入れ額は1カ月間で約1千万円を超え、過去最高だった。じわり増えつつある企業の廃業や倒産に伴い中古機械を手放す事例が相次いでいることが背景にあるようだ。同社は「LINE（ライン）」を使った査定買い取りを強化するなどして品ぞろえを確保する。

（四日市・榎田宏行）



林優社長

買い取り対象は日本製の中古品。工作機械や板金機械、コンプレッサー、フォークリフトなどの運搬・物流機器、工具・測定器など多岐にわたる。日本全国から買い取った製品は本社倉庫で修理・メンテナンスした上で、中古機械を販売する自社サイト「機械の転職」での販売や、アジアやインドなど海外への輸出も行っている。

同社では昨年秋ごろから、買い取りが拡大傾向にある。林社長は「新型コロナ関連の融資返済が本格化したこと、コスト高などの影響で製造業などの中小企業の廃業や倒産が相次いでいる。それに伴い、中古品の買い取りニーズが高まっている」と分析する。

また、新品よりも安い中古機械の需要は国内外で底堅く、特に海外では、円安

によって割安感の出ている日本製の中古機械の需要がさらに高まる見通し。中古品の品ぞろえを拡充するため、買い取りを強化。ラインを活用して最短即日見積もりを提示するオンライン査定に力を入れている。このほど、自社の買い取り専門サイト「UTTE（ウツテ）」にライン査定のサイトページに飛ぶリンクを追加した。

林社長は「製造業が伸びている発展途上国では特に中古機械が人気。中古機械の流通量を増やすことで産業廃棄物を減らし環境への負荷低減に貢献したい」と話している。

